施設紹介

出雲家庭医療学センター・出雲市民病院 家庭医養成後期研修プログラムのご紹介

小松　泰介

出雲市民病院家庭医養成後期研修プログラム　プログラム責任者

【出雲市民病院グループの概要】

当院は戦後間もない1950年に出雲大衆診療所として発足し，その後「市民のための病院」を合言葉に施設展開を行ってきました．現在では出雲市民病院（一般180床），出雲市民リハビリテーション病院（回復期リハ病床110床），大曲診療所（無床），及び2つの訪問看護ステーション，通所介護事業所等を有しています．

近年，急速に高齢化が進む島根県ですが，当地域においても高齢者比率はすでに25％を超えています．人口14万人の出雲市には高次医療機関として島根大学医学部附属病院と島根県立中央病院の2病院があり，さらに個人開業医も多く，医療過疎化が進む県内では有数の医療充足地域ではあります．しかしその中にあっても急性期・高次医療機関と在宅医療の狭間の部分を受け持つ医療機関は少なく，また在宅療養を支える医療体制もまだまだ脆弱な状況です．当法人はこの地域における急性期から慢性期疾患，入院治療から在宅療養，さらには保健予防活動にまでわたり幅広く対応し，特に多様な健康問題を有する高齢者の医療ニーズに総合的に応えるべく医療展開を進めてきました．

【出雲家庭医療学センターの歩み】

発足以来，地域基盤型の医療を目指してきた当院ですが，診療内容の更なる向上を模索する中で，「患者中心の医療・家族志向のケア・地域包括型プライマリケア志向の診療」を新たな専門性と位置づける家庭医療学に出会い，確信を深め，2003年5月に若手医師を中心に出雲家庭医療学センター（Izumo Centre for Family Medicine; 以下ICFMと略）準備会を発足させました．2004年7月には山陰地方では初となる家庭医療科外来を開設し，さらに同年11月にICFMが正式に発足し，初代センター長には金森隆院長が，副センター長として森敬良医師（現：尼崎医療生協病院，兵庫民医連家庭医療学センター代表）が就任しました．

その後，出雲市民病院家庭医療科外来・大曲診療所を中心に実践的に診療を行いつつ，定期的に家庭医療セミナー（現在まで計44回開催）や先進的な他施設の先生方を講師に迎えての家庭医療学ワークショップ・講演会等を数多く開催してきました．さらに複数のリサーチプロジェクトを立ち上げ，家庭医療学会等での発表も積極的に行っています．また当センターのメーリングリストには全国各地の医師・医学生・コメディカルの方々に多数参加いただき，家庭医療に関する様々な話題について活発な意見交換が行われています．

家庭医養成についてもICFMを中心として後期研修プログラムの検討を進めてきましたが，2007年4月からは正式に日本家庭医療学会認定プログラムとして始動し，現在までに3名の後期研修医を迎えています．

【後期研修プログラムの概要】

臨床研修必修化以降，絶対的な医師数不足に加えて，都市部への医師偏在による医療の地域間格

家庭医療科外来カンファレンス

診療所研修での訪問診療の一場面

差が問題となっています．島根県においても例外ではなく，中小病院や中山間地域の診療所を支える総合医の不足はとりわけ深刻です．当院はどこにでもある典型的な地方の小病院です．本プログラムの特徴はこうした地域基盤型病院の家庭医養成プログラムとして「病棟もみる家庭医」を育成することです．このような環境で家庭医としてのアイデンティティを確立し，生涯を通して地域で包括的・継続的に診療を展開してゆける医師を養成することは，地域医療を支える人材確保において大きな意義があると考えています．

〈総合内科研修〉

総合内科研修は出雲市民病院にて行います．この研修では臓器別ではない急性期・亜急性期・慢性期にわたる多彩な疾患・健康問題に対応できる知識・技術を習得することを目標とします．また家庭医療科外来において継続的な外来研修を行い，家庭医を特徴づける能力について学び，実践を開始します．小規模病院の診療では，一般的な医学的ケアに留まらず，患者を取り巻く様々な背景に基づく多種多様な問題が持ち込まれます．通常のケースカンファレンスに加え，院内外の様々なスタッフや家族を交えたケアカンファレンスを開催し，これらの問題に対応する力を養います．

〈診療所研修〉

診療所研修は教育診療所である大曲診療所で行います．非選択的な外来診療，在宅診療，地域保健活動の研修を行います．コミュニティにより近い診療所での研修は特に家族志向型プライマリケアを学ぶには格好のフィールドと考え，最低でも1年間の継続した研修期間を設定しています．さらに当診療所で取り組まれている「診療の質改善」活動への参加を通して診療所運営や経営に関する知識や新しいスキルを実践的に学びます．

〈その他　リサーチ・教育リソースなど〉

3年間の研修期間中に臨床研究の基礎的な知識を身につけ，リサーチプロジェクトを立ち上げ，学会発表を行うことを課題としています．さらに院内外の様々な機会で講師やワークショップ等の運営にも主体的に関わります．また研修の質を保証するため，家庭医療・医学教育分野の経験豊かな先生方を外部アドバイザーとして招聘しており，さらに最近ではインターネットを利用した家庭医療に関する遠隔教育への参加も始まっています．

〈研修評価〉

研修評価は主として研修医・指導医による日常的な振り返りでのフィードバックが主体で，適宜SEA（significant event analysis）等の教育ツー

ルも用い形成的評価を行います．また研修の節目ではポートフォリオを用いての評価を行います．特にポートフォリオ作成については当院では初期研修時から積極的に取り組んでおり，年々充実した内容になっています．

【おわりに ～ This is the IZU-mode!! ～】

山陰の片田舎で手探りで進めてきたICFMの歩みですが，改めて振り返ると，この地域の医療・健康問題に真正面から対峙することから出発し，ここで自ら果たすべき役割について迷い模索する中で辿り着いた，いわば「草の根」の家庭医療の実践ではなかったかと感じています．今後はさらに診療・研修の質を高め，地域医療に貢献し，全国にも情報発信できる家庭医養成プログラムを目指して力を尽くしてゆきたいと考えています．これまでご支援いただきました皆様にはこの紙面をお借りして深謝いたしますとともに，今後とも暖かいご指導をお願いいたします．

施設紹介